



高P連だより

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番 第二北海道通信ビル8F
TEL (011) 232-0007 FAX (011) 232-0006
URL : <http://www.hokkaido-kouren.com/>

No.
124

Heart to heart 北の志 —ひたむきに頑張る君たちを応援したい—



子どもと将来のことについて話してみませんか！

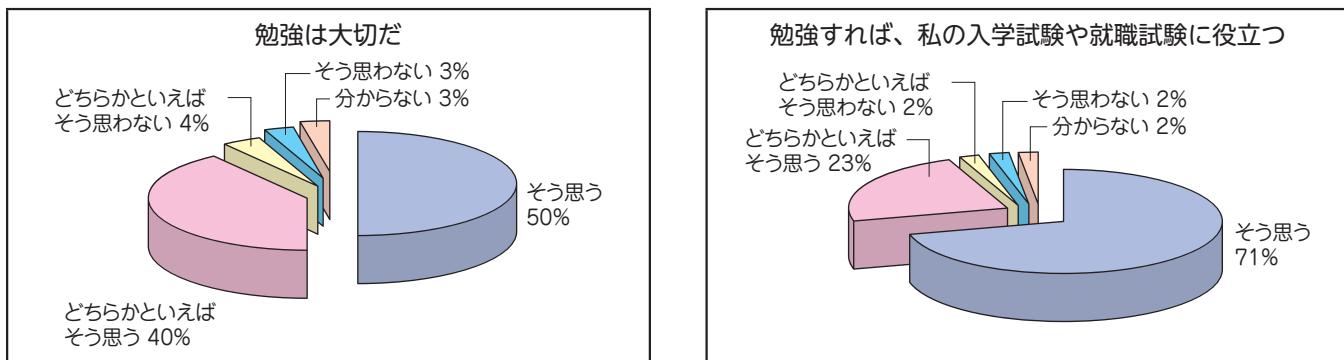
北海道教育委員会

今、高校生の学力向上のため、家庭学習習慣の定着が求められています。

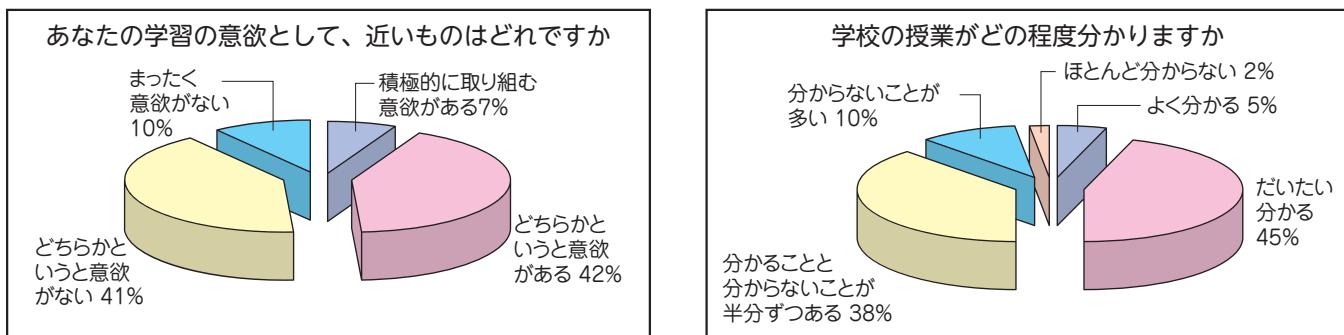
次のグラフは、本道の高校生の「確かな学力」を育成するため、国語、数学、英語の学習内容の定着状況を客観的に把握し、指導方法の工夫と改善を図ることを目的に、今年度4～5月に実施した「平成23年度北海道高等学校学力等実態調査」のなかで、生徒の学習状況を把握するためのアンケート調査の結果から、特徴的な項目について抜粋したものです。(参加生徒：高校2・3年生 計26,919人)



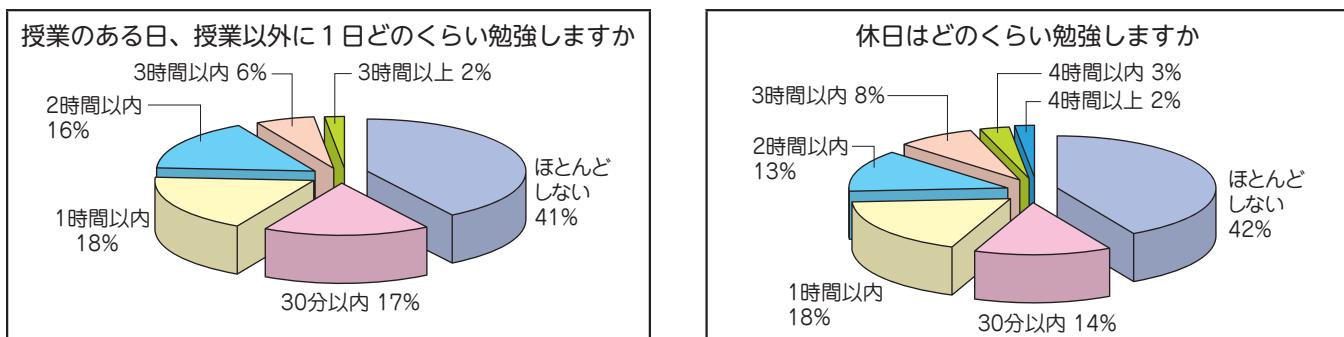
① ほとんどの生徒が勉強は大切であり、自分の将来に役立つと考えています。



② しかし、半数の生徒は学習への意欲が低く、授業の理解も十分ではありません。



③ そして、半数以上の生徒が家庭学習時間は、0～30分となっています。



近年、子どもたちが将来に不安を感じたり、学校での学習に自分の将来との関係で意義を見いだせずにいたりして、学習意欲が低下し、学習習慣が確立しないといった状況が見られるという指摘があります。(中央教育審議会答申(平成20年1月17日)より)

高校生のこの大切な時期だからこそ、自分の将来の姿を考えることや将来の夢を叶えるために努力することの大切さなどについて、子どもと話し合う時間をつくってみてください。

だ よ り

胆振支部



「胆振支部より」

胆振支部長 熊谷克己
(苦小牧工業高等学校PTA会長)

道高P連第一回理事会 平成二十二年度

胆振支部は、私学を含め二十二校三十四単P（生徒数約八七〇〇名）で構成されています。

話があり、大変和やかに有意義な時間を過ごしていた
だいた事だと思っておりま
す。

に大変有意義なご講演でした。
さて、三月末をもちまし
て、胆振支部事務局校とし
ての三月会終了致しました。

◆午後開催の第二回理事会 議案について協議。

◆平成二十四年度より「一般社団法人」として新し

さて、平成二十三年度は胆振支部総会を六月三日に道高P連より高間会長・松本副会長・小野事務局員のご参列をいただき苦小牧グランドホテルニューエンターテイメントにて開催しました。支部総会も大変活発にかつスマーズに会を進める事ができました。総会終了後の懇親会では、各校の紹介や行事等の

センター運営委員長の名越晴男氏のご講演やモデル口ケットの製作・打ち上げを行なうなど貴重な交流の場となりました。

更に二月二日には、安全対策研修会を札幌未来情報専門学校の三浦龍彦氏を講師としてお招きし「スマートフォンの安全な使い方」についてのご講演をいただきました。当日は、PTA関係約五十名が参加し、スマートフォンの問題点や課題等の情報を提供していました。だき、子供達の安全・安心な生活の保障に繋げるため

来年度は室蘭東翔高校に事務局が移ります。今後も胆振支部の活動がさらに活性化するよう、しっかりと引き継ぎをして行きたいと思っています。

- ◆ III 議長選出
- ◆ 十勝支部長小林孝幸理事を選出し、協議に入る。
- IV 議事
- 1 報告事項
- ◆ (1) 平成23年度道高P連会務中間報告について役員、事務局が出席した諸会議について説明。
- ◆ (2) 平成23年度全国高P連第2回総会・評議委員会報告及び各委員会報告について
- ◆ 全国高P連「平成24年度事業計画」について説明。
 - ◆ 第1回委員会の協議内容
- ◆ 研修・全国大会への支援と協力。
- ◆ 組織等検討委員会・健全な收支に基づく健全な運営を図るため、平成25年度より8円の値上げについて会長より説明有り。
- ◆ その他・「賠償責任補償制度」の加入者拡大運動
- ◆ (3) 平成23年度道高P連各委員会報告について
- ◆ 報「及び「ホームページ」の充実。

A photograph of a lecture hall. A man in a suit stands at a podium on the right, speaking to an audience of students seated at desks. A large whiteboard is visible in the background.

て、胆振支部事務局校としての2年間が終了致します。短い期間ではありましたが、P連北海道大会や高校生と語るつどいの運営や全国高連等多くの行事に関わることができました。

◆ 健全育成・「高校生実能調査」の継続・「薬物乱用防止事業」の推進・新しく「子どもたちの命を守る取り組み」の実施。

◆ 進路対策・「高校生と保護者の進路に関する意識調査」の実施。

平成二十三年度道高P連第二回理事会報告

平成24年2月16日（木）

・ ホテルライフオート札幌

・ 出席25名、欠席8名（委任状3名）により本会成

立。

留萌支部

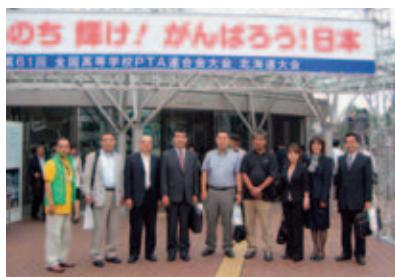
支

部

「変革の時代を生きる

留萌支部長 村山 ゆかり

減少傾向にある中、公立高校配置計画案策定に向けた取り組みが進んでおります。地域キャンパス校の導入をはじめ職業学科の学科転換、統廃合計画など、地域の実情を把握しながら学校・PTA・地域が一体となり真剣に協議を進めていきます。このようないきなればならない時を迎えております。このような変革の時代だからこそ、生



留萌、羽幌、天塩の普通科高校をはじめ、商業単置校である苦志前商業高校、また、電気・建築、情報ビジネス科を設置する留萌千望高校、日本最北の遠別農業高校を合わせた全日制6校と羽幌町沖合約24kmの天売島にある天売高校は、道内唯一の町立定時制普通科高校で、全校生徒2名の全道一小さな高校であります。

北海道の西北部「日本海オロロンライン」に位置する留萌支部は、豊かな自然に恵まれた特色ある7校のPTAが、支え合いながら活動しております。

徒一人ひとりが、これから新しい時代を創る人となるための学校づくりに微力ながらも力を尽くしていかなければならぬと考えております。

活動を振り返ってみますと、札幌で開催されました全国高P連北海道大会は、参加者全員が大きな感動をいただき、支部懇親会は大いに盛り上がり今後の活動への意欲が生まれました。9月15～16日は、羽幌町を会場に支部研究大会を開催。留萌市出身の児童文学作家・小笠原治嘉氏が講演。

いに盛り上がり今後の活動への意欲が生まれました。9月15～16日は、羽幌町を会場に支部研究大会を開催。留萌市出身の児童文学著者・小笠原治嘉氏が講演。更に就職支援事業として、

たことが強く印象に残つて
おります。

さて、24年度は、6月15
～16日に旭川市で開催しま
す全道高P連「旭川・留萌
大会」と「高校生と語るつ
どい」の開催と大きな事業
を担当させていただくこと
になつております。留萌支
部メンバー誠心誠意準備を
させていただきますので、
よろしくお願ひいたします
。たくさんの方々のご参
加を心よりお待ちしており
ます。

北海道若年者就職支援センターチーム長の益山健一氏が「ワカル仕事、ワカル自分」について講演。研究大会には、各校から生徒も参加しておらず、真剣に耳を傾け素晴らしい感想を述べていただい

のまとめ（議事録）を資料として提示。

対策委員会) 実施校について

- (4) 平成23年度道高P連
「総会」・「全道大会（石
狩大会）」について

◆「総会」議事録の確認。「石
狩大会」の参加者数等の
報告。

(5) 平成23年度「高校生
と語るつどい」の実施に
ついて

◆「胆振・後志・名寄の3支
部で実施。高P連だより
123号に掲載。これをもつ
て単Pへの報告に代える
ことで了承。

(6) 「WYSHペアレンツ
北海道プロジェクト」関
連事業について

①「京都研修会」への派遣
事業及び「公開授業」の
取り組みについて

◆「京都研修会」へ4名派
遣。鹿追高校（駒井亜希
子・塚本登教諭）で公開
授業実施。

②「WYSH教育フォロー
アップ研修会」について
1月7日、木原雅子先生
を講師に招いて実施。参
加者80名。

(7) 全国高P連アンケー
ト調査（健全育成・進路

(8) 第61回全国高P連大会
「北海道大会」について
①現況報告等について
◆各県連広報紙の関連記事
を紹介。

②決算報告について
◆小野事務局職員より報
告。

(9) 「道高P連災害補償制
度」について

①平成23年度加入校一覧等
について

◆脱退校12校、約6000
名の減少。

②「給付規程」の改訂につ
いて

◆平成24年度より「免責条
項」を廃止。

③「災害補償制度」支部説
明会について

◆後志・胆振・日高・釧路
支部で開催。

(10) 平成23年度「北海道
シンポジウム」について
◆平成23年度は全国大会の
関係で実施せず。

高校生

交通安全標語・ポスター入選作

(高等学校長協会提供)



交通事故死ゼロを目指して

北海道高等学校長協会会長 辻 敏裕



北海道岩見沢東高等学校 武石早代

昨年の北海道における交通事故の犠牲者は215人でした。交通事故による死者数がピークであった昭和46年の889人と比べると4分の1まで減少はしているものの、尊い命が失われていることは、大変心が痛みます。

今年も交通安全関係団体が一体となり「ストップ・ザ・交通事故死ゼロ」を目指して、大変心が痛みます。

全で安心な北海道」をスローガンに、交通事故防止活動に取り組んでいます。

しかしながら、交通事故を減少させようとの思いも空しく、高齢者ならびに高校生を含む若年者の交通事故の傷ましいニュースが続いている。

こうしたなか、本協会では、調査研究部学校安全小委員会が中心となり、高校

生が自らの命と他者の命を大切にする交通マナーを身につけ、交通事故の危険に対する感受性を高めることを期待して「交通安全標語・ポスター」の募集事業を続けており、今年で30回目を迎える。応募いたいたいた生徒の皆さんと指導にあたられた先生方に、心から厚くお礼を申し上げます。最優秀の標語とポス

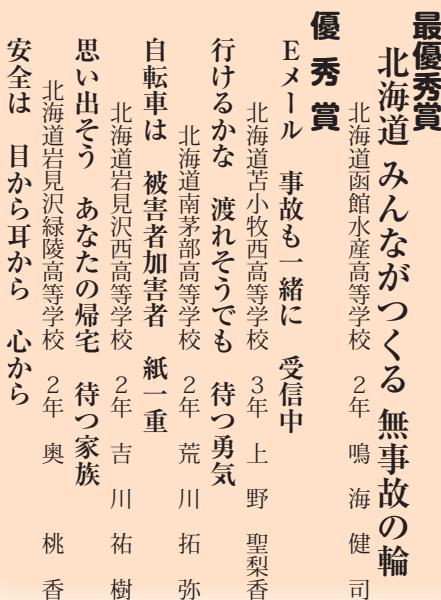
タードは本道高校生のメッシュとして道内の全ての高等学校と関係機関にお届けします。

おりに、募集事業の推進にあたり多大なお力添えをいたいたいた北海道高等学校PTA連合会の皆様には、心からの感謝を申し上げます。

タードは一般競争入札でJTBに決定。承認される。(4) 平成24年度道高P連暫定予算(案)について

◆田村次長より資料を基に説明があり、承認される。(5) 平成24年度道高P連役員選考委員会委員の選出について

◆平成24年度の役員を第3回理事会に提案するため、事務局で選考委員を選任することで承認される。(6) 平成24年度道高P連事務局体制について



標語の部

最優秀賞
北海道みんながつくる無事故の輪
北海道函館水産高等学校 2年 鳴海健司

Eメール 事故も一緒に受信中

北海道苦小牧西高等学校 3年 上野聖梨香

行けるかな 渡れそうでも 待つ勇気

北海道南茅部高等学校 2年 荒川拓弥

自転車は 被害者加害者 紙一重

北海道岩見沢緑陵高等学校 2年 吉川祐樹

思い出そう あなたの帰宅 待つ家族

北海道釧路明輝高等学校 1年 渡辺冴佳

- ◆事業日程(案)について
 - ◆承認される。
- ◆第62回道高P連大会開催案内(旭川・留萌支部担当)について
 - ◆野瀬事務局長は65歳定年を迎えるが、施行細則第14条の3項(3)を適用し、1年に限って事務局長に任用することで承認される。
- ◆大会前後日程について
 - ◆承認される。
- ◆(2)第62回全国高P連大会・和歌山大会について
 - ◆(1)平成24年度支部事務局長校について
 - ◆確認を行った。
 - ◆(2)各種大会等ローテーションについて
 - ◆確認を行った。
- ◆(3)第62回全国高P連大会・和歌山大会について
 - ◆確認を行った。
- ◆(4)平成24年度道高P連に決定。承認される。
 - ◆(1)「新規高卒者の就職支援」(道との連携事業)の取り組みについて
 - ◆確認を行った。
 - ◆(2)道と連携し、パンフレットの作成、生徒への配布、講演会の実施などを取り組みについて
 - ◆道と連携し、パンフレットの作成、生徒への配布、講演会の実施などを取り組みについて
- ◆(5)平成24年度道高P連役員選考委員会委員の選出について
 - ◆(1)第3回理事会の開催日程(案)について
 - ◆(2)5月17日(木)開催。
- ◆VI 閉会挨拶
- ◆V 議長退任挨拶
- ◆VII 閉会挨拶

会長コラム



榎原綾子

会員の皆様には、

日頃より、道高P連の活動にご支援

ご協力いただきましてありがとうございます。また平成23年度は、全国大会・北海道大会の開催という大きな事業を行い、大変お世話になりました。皆様の心温かい、熱意ある活動に敬意を表しますとともに、あらためて厚くお礼を申し上げます。

さて、昨秋から、子どもたちが日ごろの活動の成果を発表する場や表彰式などに出席させていただく機会がいくつもありました。本号に掲載の「北海道高等学校定時制・通信制生徒生活体験発表会」では、いくつもの困難を乗り越えて自らの未来に向けて頑張っている高校生の姿がありました。「専門高校Power Upプロジェクト推進事業」のプレゼンテーションでは、専門学科で学ぶ高校生の専門性、技術力、資格取得のレベルの高さに目をみはる

と同時に、彼らの努力の大きさ、そして

てその学びの中で培われている豊かな人間性を感じました。「(J M C R)ジャパンマイコンカーラリー北海道大会・

全国大会」でも、工夫をこらして作り上げた愛車を手にレースに参加する高校生の姿に「ものづくり」を通して培つた、決してあきらめない何度もチャレンジする強い心が見えました。この他、書の道で自らを表現する子どもたち、読書感想文コンクールでは、情感豊かで品格のある文章に感動します。

未會有の津波による大災害に加え、その後の原発問題等、現在もなお厳しい生活を余儀なくされている多数の皆様が一日も早く元の生活に戻れることを願わざにはいられません。今回の大震災を経験して、私たちは生かされていることに感謝しなければいけないという思いを強くしました。

子どもたちだけではなく、先生方の研修会にお邪魔した機会では、(W Y S Hペアレンツ・北海道高等学校教育相談研究会)、子どもたちへの熱い心をもつた先生方の真剣に学ばれる姿に、一人の保護者として大変心強く、また有難く思いました。

8月25日、26日に開催された、全国高等学校P.T.A連合会大会北海道大会のテーマは「いのち輝け!」でした。精神科医・立教大学教授香山リカさんの基調講演(生きる力をつける処方箋)、前旭山動物園園長小菅正夫さんの記念講演(命をつなぐ!!)は非常に有意義なものでした。特に動物たちがそれ特有の方法で命をつないできたという話には改めて

改めて「命」について考えさせられた大会でした。

「改めて命について考える」

全国の高P連だよりから (転載)

岡山県高等学校P.T.A連合会会長
岡山地区連合会会長

中村有作

感心させられました。強い者が生き残るのではなく、環境に適応できるものが生存していくのだなと感じました。

さて、振り返ってみるに私たちは次世代、また、その次の世代へと命をつないでいるのか真剣に考える時機にさしかかっているのではないかでしょうか。われわれが快適に生活するためには、随分と犠牲にしてきたものがあるのではないか、そのツケがきているのではないかと思わずにはいられません。自然環境についても

しかり、エネルギー問題についてもしかりです。この点については地球全体の問題としてとらえ、各人、各國のエゴを捨て、次世代の子どもたちが生き生きと暮らしていける環境整備をしていく必要があるのでないでしょうか。

改めて「命」について考えさせられた大会でした。

**第62回
全国高等学校PTA連合会大会（和歌山大会）**

【大会趣旨】

近所のおばさんに朝夕声をかけられたり、よそのおじさんに叱られたり、今思えば、私たちが子どもの頃はいつも誰かが見てくれていました。行き過ぎた個人主義・格差社会…自分を見ているのは監視という名のカメラだけ。世に物や情報が溢れた代償として、私たちは『人とのつながり』という大切なものを失いつつあるのではないかでしょうか？

現在、物質的に豊かで便利な環境に甘んじながらも、このままではいけないと多くの人々が感じています。私たちの大好きな子どもたちの環境をもっともっと温かい血の通ったものにしたい、そのためには、家庭や学校だけでなく、地域や公共の力は不可欠です。地域の人たちにも、子どもたちの元気な姿は希望となります。大人も子どもと共に育つ社会をめざして、私たちにできること、私たちがやるべきことは何なのか。真剣に取り組んで行く場にしたいと願っています。

**メインテーマ 和をもって響き合え！
サブテーマ ～つれもて広げる 共育の輪～**

大会 第1日目	
時 間	8月23日(木)
9:50～	受付開始
10:10～10:40	オープニング アトラクション
10:50～12:00	開会式・表彰式
12:00～13:10	昼食・アトラクション
13:10～15:40	基調講演
15:45～16:00	全体会

大会 第2日目	
時 間	8月24日(金)
9:00～	受付開始
9:30～ 9:35	開会式
9:40～11:40	分科会
11:45～12:00	閉会式

◎分科会会場

- *第1分科会………(和歌山ビッグホール)
- *第2分科会………(和歌山市民会館〈小ホール〉〈市民ホール〉)
- *第3分科会………(武道・体育センター和歌山ビッグウェーブ(メインアリーナ))
- *第4分科会………(武道・体育センター和歌山ビッグウェーブ(サブアリーナ))
- *特別第1分科会…(紀南文化会館〈大ホール〉)
- *特別第2分科会…(和歌山市民会館〈大ホール〉)

北海道高等学校PTA連合会は、
高校生のための「災害補償制度」を
主催しています。

- ☆平成24年4月1日から「給付規程」
を改正します。
- ☆変更点：通院給付の3日免責条項
を撤廃し通院一日目から給付され
ます。

多くの学校の参加を
期待しております。

**第62回北海道高等学校PTA連合会大会
(旭川・留萌大会)開催要項(案)**

1 主 催 北海道高等学校PTA連合
2 主 管 北海道高等学校PTA連合会 旭川・留萌支部
3 後 援 時 北海道教育委員会 旭川市教育委員会 北海道高等学校長協会
4 日 平成24年6月15日(金)・16日(土)

日	内容	時間	会場
15日 (金)	道高P連総会	10:00～12:00	旭川グランドホテル 彩雲の間
	受付	12:30～13:30	同
	開会式・表彰式	13:30～14:30	同 グランドホール
	講演	14:30～16:00	同 グランドホール
	懇親会 受付	17:00～17:30	同 グランドホール
16日 (土)	懇親会	17:30～19:00	同 グランドホール
	受付	9:00～ 9:30	旭川東高等学校
	分科会	9:30～12:00	旭川商業高等学校

5会場 旭川グランドホテル 旭川市6条通9丁目
TEL: 0166-24-2111
旭川東高等学校 旭川市6条通11丁目
TEL: 0166-23-2855
旭川商業高等学校 旭川市曙3条3丁目
TEL: 0166-22-3556

6大会主題 「価値観の多様化時代、子供たちの主体性を育む意欲的なPTA活動を」

〔要旨〕 急激に変化する時代の中で、ともすると自分を見失いがちな若者たちが増えている。本来夢多きはずの子供たちを取り巻く教育環境も、未だ学校・家庭・地域の教育力の低下が叫ばれて久しい状況にある。それらの様々な要因を背景に、今一度心豊かな逞しい青少年を育むために、会員が一堂に会して情報や意見を交換し、新しい時代に向けての指針を探る一助とする。

7大会メッセージ

「雄大な大雪山、夕日に輝く黄金岬 この豊かな大地に集い 自然の恩恵に感謝し、未来への架け橋となる子供たちが、風雪に耐え、逞しく、健やかに成長することを願い、エールを送りましょう。」

8分科会構成と研究協議

- ・25～30名程度で40～45グループを構成し、情報交換・意見交換を行う。
- ・各分科会ごとにテーマを設けるが、参加者の意向を踏まえて進行することを基本とする。

9講演題未定

講師 講談師 神田山陽氏

10費用 参加料 4,000円 懇親会費 5,000円 集録代 1,000円

11参加申込 第62回北海道高等学校PTA連合会大会(旭川・留萌大会)

参加・宿泊申込書を下記事務局へ、メールkyokunanpta@

hokkaido-c.ed.jpまたは専用FAXに送付

12申込締切 平成24年4月27日(金)

13事務局 北海道旭川南高等学校内

第62回道高P連 旭川・留萌大会 事務局

〒078-8803 旭川市緑が丘東3条3丁目1番1号

TEL: 0166-65-8770

(専用TEL) 0166-60-5505

(専用FAX) 0166-60-5506

私にジャストフィットする保険を選ぶなら
いろいろなかたちの「安心」があるエース保険。

いつでも、どこでも、今日も、未来も。どんな人にもぴったりな「安心」と「満足」を、エース保険が提供いたします。

